



# 桜風

合志市立西合志中央小学校学校だより

校訓【健康 工夫 協同】

令和6（2024）年12月20日 第8号

文責：校長 佐藤 正貴

## 人権月間の取組…。人権とは？

先日、4年生の学年集会に参加しました。最後に私が話す時間が設けられていました。そこで子どもたちに「人権って何？」という質問をしました。すぐに「自由にできる権利」という答えが返ってきました。良く学んでいると感心したところです。きっと学年で学ぶべき内容を吟味・整理して、子どもたちの人権に関する認識や意識の向上を考えて、この期間の学習を構築されてたのでしょう。

日本の憲法は、この「自由に生きる権利」を保障しています。学ぶ権利、職業選択、住む場所、信教など、自分自身が自分の幸せを追求することができる権利が保障されているということです。ただし、これらを実現するためには継続した努力が必要になる場合もあります。また、決して忘れてはならないのは、「公共の福祉に反しない限り…」という言葉です。ここで言われている「公共の福祉に反しない限り…」という意味について、恥ずかしながら、私はよく理解していませんでした。調べてみたところ「他の人権を不当に侵害しない限り」という意味でした。要するに、人の不幸の上に自分自身の幸せを築くことは許されないということです。「人に迷惑をかけないように…」「人の嫌がることはしないように…」「自分がされて嫌なことは、人にはしないように…」など、どのご家庭でもお子さんに言われていることではないでしょうか。

学校では、人権教育を教育活動の根幹に据えています。なぜ、学校で学ぶのかというと、子どもたち一人一人が将来幸せに生きることができる力を付けるためです。幸せに生きるためには、学力も必要だと思います。しかし、それだけではありません。もしかすると豊かに人と関わる力をつける事の方が重要なかもしれません。自分の考えや思いを表現できる力、他者の思いや考えを受け入れる力を高めて、自分自身の人間性をバージョンアップさせていくのが人権学習です。合志市の重点取組事項に「あいさつ（先語後礼）」「返事」ができる児童生徒の育成があるのは、人と豊かに関わる事ができる力を付けておくことが、幸せな人生に繋がるからだとは私は考えています。

## 人の心はオセロと同じ。

毎年10月に「部落差別をはじめあらゆる差別をなくす熊本県人権子ども集会」が開催されています。コロナ禍以前は、パークドームに約1万人ほど小中高校生が集まって集会が行われていました。今年はオンデマンドで発表の様子を視聴する形式でした。その中で高校生の発表を聞いて、なるほど！と感心されました。人の心は、簡単にいうと善悪があります。人権学習で考えると、差別やいじめをなくす動きと差別やいじめをしてしまう、または見過ごしてしまう動きがあります。それをオセロの白と黒に例えての話がありました。例えば、白を善・黒を悪（色で善悪を表現することがふさわしいとは思いませんが、思いつかないので）と考えると、白に挟まれた黒は白に変わる、善の行動に変わるということです。逆に黒に挟まれた白は、黒に変わります。善の心を封じ込めて黒の行動をとらざるを得なくなるということです。学級に置き換えると、全員が白の状態を毎日キープすれば、差別やいじめは起きないということです。しかし、日々、白になったり黒になったりを繰り返しているのが、子どもたちだけでなく、我々大人の社会でも日常だと思っています。そんな社会の中で大事になってくるのは、白である自分、黒である自分に気づく力ではないでしょうか。自分自身の言動を日々振り返りながら白の日を増やしていくために、何が白で何が黒なのかを、学び、考え続けていく必要があると改めて高校生の発表から教えられました。



